

“愉しく”学ぶ大瀬戸っ子の育成

～ 「振り返り」と「自己決定」を繰り返す学習の展開～

西海市立大瀬戸小学校

1 研究イメージ図



2 子どもに付けたい 学びに向かう力 →P.6参照

主体的に学ぶ力

- ・ 自らの学習課題を捉える
 - ▶ 既習とのずれや違い
 - ▶ 学習計画表における自分の現在地の確認



- ・ 試行錯誤を繰り返しながら、学びを進める
 - ▶ 習熟度に応じた課題の提供
 - ▶ 適時性のある一人ひとりへの関わり



自分を見つめる力

- ・ 学習内容の理解度を把握する
 - ▶ チェックテスト等による見取りによる声掛け
 - ▶ 振り返りの場の保障



- ・ 自らの変容や成長を確かめる
 - ▶ 計画表による自己内比較やスプレッドシートによる他者比較
 - ▶ 振り返りシートの蓄積と教師のコメントによる自覚化



学びを調整する力

- ・ 困難な場面に出会っても、諦めない
 - ▶ 計画表の自己内比較や他者参照
 - ▶ 適宜支援や振り返りへのコメント記入



- ・ 学習内容や方法を見直し、修正する
 - ▶ 優れた振り返りの紹介
 - ▶ スプレッドシートにおける他者参照



よりよいものを創り上げる力

- ・ 積極的に他者と考えを交流する
 - ▶ 意図的なグルーピング
 - ▶ 対話の場の設定



- ・ 自分の現状に満足せず、学びの質を高める
 - ▶ チャレンジやミッション等の応用問題の準備
 - ▶ 理想モデルの提示



西海市教育委員会指定「学力向上」

令和4年度

「大瀬戸っ子スタンダード」による授業改善～算数科を中心として～

令和5年度

- ①子どもと共有する「めあて」
 - ▶既習との“ずれ” →P.36参照
 - ▶解決欲求が高まる課題
- ②子どもと共有する「まとめ」
 - ▶めあてとの整合性
 - ▶子どもの言葉で
- ③「かく」活動の設定
 - ▶考えや理解度を明確にする
 - ▶共通点や一般性を見出す



長崎県教育委員会指定「学びに向かう力の育成」

令和6年度

“愉しく”学ぶ大瀬戸っ子とは？

- ・指導者を招聘して校内研修を実施。全職員で目指す子ども像を考え、ワークショップ形式で議論し整理することで、研究の第一歩を踏み出す。→P.12参照
- ・「大瀬戸っ子スタンダード」を土台とし、“愉しく”学ぶ大瀬戸っ子の姿に近付けるため、「振り返り」と「自己決定」というキーワードのもと研究授業・協議を進める。→P.57参照
- ・個別最適な学びの充実を掲げ、自由進度学習に取り組み始めた。

7月
指導者招聘 校内研修11月
中間発表会 研究授業

令和7年度

「自由進度学習（大瀬戸スタイル）」への挑戦

まず、やってみる！（Try & Error）

研究主任をはじめとして、授業改善担当や教務主任などが、それぞれの学年や担当教科で研究授業を実施。全職員が参観し、イメージをつかむ。

4月
研究主任 提案授業

教師の関わりを、どこまで行うか？

研究授業を重ねるうちに、「授業中にどう教師が関わっていくのか」という課題が出てくる。本校では、「一人ひとりに“とことん”関わる」をキーワードに、教師は教室内を動き回り、子どもの学びを支援していくスタイルを模索していく。→P.46参照

6月
中間指導 研究授業

見方・考え方は働いているの？

自由進度学習に取り組む中で、「子どもが見方・考え方を働かせるためには、どんな手立てが必要か？」という課題が浮かび上がる。模擬授業を通して手立てを考え、展開案に示すことを確認する。

11月
授業後の研究会

令和4・5年度



振り返り

自己調整

自己決定

- ① 「大瀬戸っ子スタンダード」での手立て（子どもと共有する「めあて」と「まとめ」、「かく」活動の設定）を授業づくりの基盤として実践することにより、主体的・対話的で深い学びを実現することができるであろう。
- ② 「自由進度学習（大瀬戸スタイル）」に取り組むことにより、自分の学びを振り返ったり、自己決定したりと、**自己調整**をしながら、学びに向かう力を高めることができるであろう。

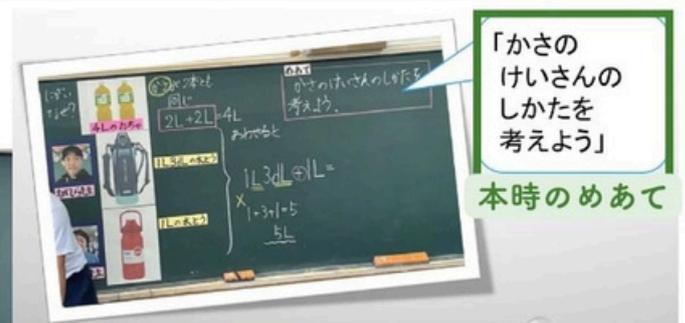
令和4・5年度

大瀬戸っ子スタンダード

→一単位時間の問題解決の学びの中で、「**主体的・対話的で深い学び**」の視点に立った学習過程



5 「ずれ」を生み出す



たし算だから、数字を全部足せばいいよね？

「ずれ」

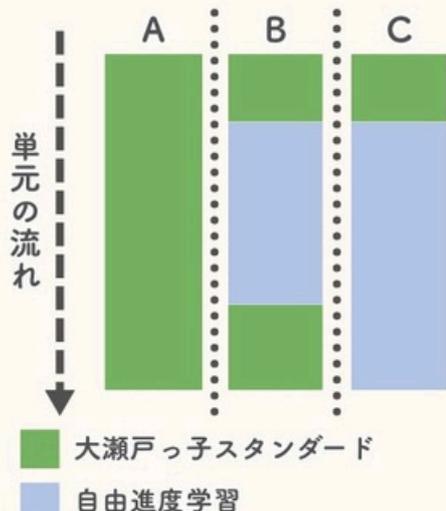
ちがうよ！
LとdLで分けないと！

見方・考え方に教師との「ずれ」を見出させる。

- 最後は、何を解決すればよいのかを確認し、**文言として整理したもの**が「本時のめあて」となる。

自由進度学習（大瀬戸スタイル）

自由進度学習（大瀬戸スタイル）



- A：単元全体を「大瀬戸っ子スタンダード」で実施
- B：単元のはじめと終わりを「大瀬戸っ子スタンダード」で、途中を「自由進度学習」で実施
- C：単元のはじめを「大瀬戸っ子スタンダード」で、後の時間を「自由進度学習」で実施

- ▶単元の授業を、大きくA・B・Cの3パターンを基盤として実施する。
- ▶どのパターンで実施するかは、学級の実態に応じて授業者が選択する。

学びの具体化を支える教材例

学習計画表

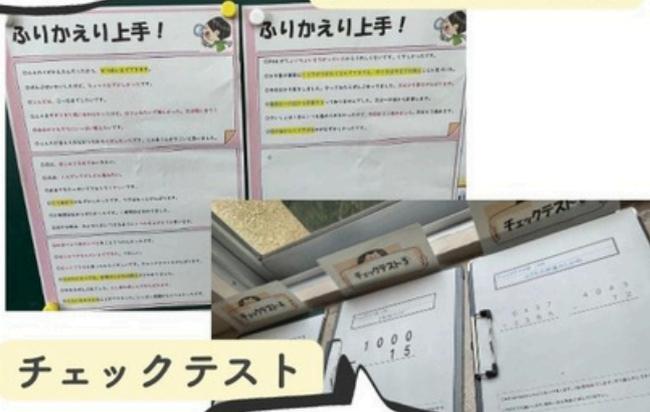
子どもが“どのように学ぶか”
自己決定する材料

単元のゴール
●身のまわりにあるものの形について、およその面積や体積を求めることができる。

学習計画	単元のゴール			
	かならずおこなわせる！ プリント	チェックテスト	ほじゆう ミッション	チャレンジしてみよう！ ライブ러리
1 およその面積の求め方を考えよう。	①②③	①		① ② ○
2 およその容積の求め方を考えよう。	④⑤⑥	②		③ ④
地図を使って、北海道のおよ				

学習の約束
○「わかったふり」をぜったいにしないこと！
○プリントの答え合わせは自分でします。
○チェックテストは一人で取り組みます。
「ともに学び、ともに高め合おう」

振り返りの共有



チェックテスト

子どもが“自分で”
テストをとれる場の設定

6 自由進度学習（大瀬戸スタイル）では…

一人ひとりに“とことん”関わる

大瀬戸小が辿り着いた答えは、自由な学びの中でもただ委ねるだけではなく、**一人ひとりの子どもの様子を丁寧に**見取り、**一人ひとりに“とことん”関わる**という、伴走者としての姿勢が大切である、ということだった。

一人ひとりの子どもの様子を丁寧に【見取り】、子どものつまづき・学びの深まりを捉え、最適なタイミングで対話し、支援する。

具体的な教師の関わり例

- 進度が早い子と、発展的なゲームと一緒に活動する。
(例)【たし算とひき算の筆算】(3年) → 『たし算サイコロゲーム』
- 汎用性を見出せるような声掛けをする。
(例)「(発展問題で) さっきと同じような図に表してごらん。」
- 理想となるモデルを提示し、変容を促す。
(例)「(振り返りの場面で) ○○さんは、椅子と子どもを線で結んで考えているね」



目指す子どもの姿

振り返り

既習内容の想起

- ▶式、考え方、算数用語、見方・考え方など
- ▶前時のまとめ・ポイント

算数用語に線を引いたものを提示

算数用語

今日は、2年算数の既習の内容を思い出しました。算数は既習の内容を思い出しながら学習を進めていくことが大切です。

振り返りを「かく」

- ▶友達の振り返りを参照
- ▶自己の振り返りの蓄積

自分の学び・理解度の把握

- ▶分かる・分からないを明らかに

枠をはみ出してまで振り返りを書いている

※適宜、「導入」・「展開」・「終末」のいずれかで行う。

実効性を高めるために

①学習展開案

- 学習指導案から、**発問や反応などを具体的な言葉で表す学習展開案**へと移行。

例：2年算数（ひき算のひっ算）の導入

T 前回の学習を振り返りましょう。

P 2桁-2桁の計算の仕方を考えました。

P 10のまとまりと、ばらに分けて考えると良かったです。

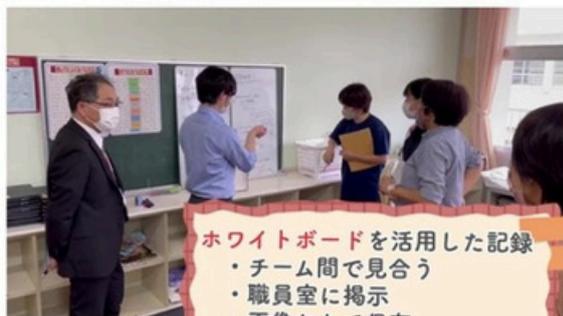
T 2桁-2桁でも、「10のまとまりと、ばらに分けて考える」ことがポイントでしたね。

※前単元（たし算のひっ算）とつなげることで、児童が自分の学びを進めるときに、「10のまとまりと、ばらに分けて考える」という見方ができるようにする。

「見方・考え方」を働かせられるような支援のタイミングを記していく。

③チーム協議

- 全体協議を改め、**チーム協議**へ。少人数にすることで、一人一人が**当事者意識**を高め、**主体的に協議へ参画**。



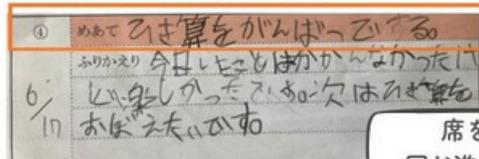
ホワイトボードを活用した記録

- ・チーム間で見合う
- ・職員室に掲示
- ・画像として保存

自己決定

学習のめあてを立てる

- ▶子どもが自分の言葉で



席を立てて同じ進度の友達と

目的をもって学びを進める

- ▶学び方・交流相手などを、自らの目的に合わせて選択
- ▶授業と家庭学習をつなげる



②模擬授業

- 作成した学習展開案をもとに、**教師役と子ども役に分かれ、板書をしながら授業を実施**。**その場で修正**を加える。



④授業実践記録

- 前ページのA・B・Cのうち、どれを基盤として実施したか、全学年で共有。**実践を行いながら理論を構築した**。

2年	授業パターン	
1. グラフとひょう	A (スタンダード)	-
2. たし算のひっ算	A (スタンダード)	-
3. ひき算のひっ算	B (スタンダード～自由～スタンダード)	- 1単位
4. 長さのたんい	C (スタンダード～自由)	- 単元全
5. 3けたの数	A (スタンダード)	-
6. 水のかさのたんい	A (スタンダード)	-
7. 時ごとと時間	C (スタンダード～自由)	-
8. 計算のくふう	C (スタンダード～自由)	-
9. たし算とひき算のひっ算	C (スタンダード～自由)	-
10. 長方形と正方形	A (スタンダード)	-
11. かけ算(1)	A (スタンダード)	-

子どもへのアンケート * 「令和7年度全国学力・学習状況調査（質問紙調査）」の項目を引用。

6年生（4月と1月の回答結果を比較）

【当てはまる】と回答した児童の割合（％）

子どもに付けたい 学びに向かう力	アンケート内容	4月	1月
主体的に学ぶ力	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。	26.9	36.0
自分を見つめる力	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	3.8	28.0
学びを調整する力	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずに色々な方法を考える。	53.8	52.0
よりよいものを創り上げる力	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。	38.5	44.0

他の学年ではどうだろう？
結果を見てみよう！

数値の上昇または維持が
見られ、概ね学びに向か
う力が高まったね！

1～5年生

（1月の回答結果のみ）

1年生

2年生

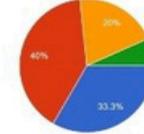
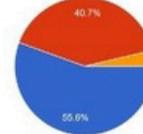
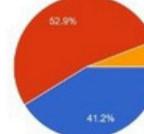
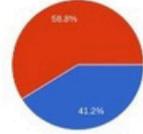
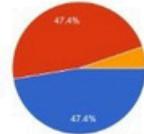
3年生

4年生

5年生

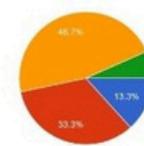
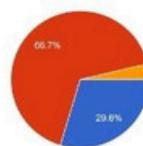
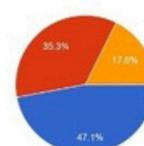
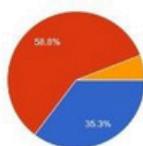
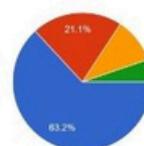
主体的に学ぶ力

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。



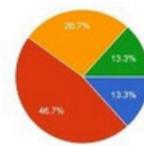
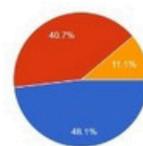
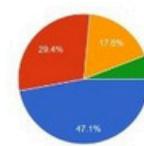
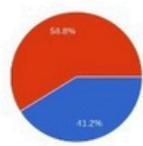
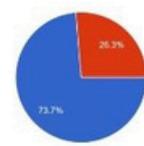
自分を見つめる力

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。



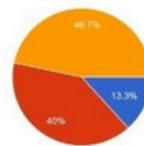
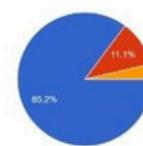
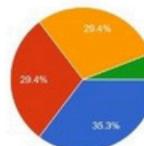
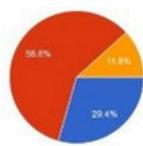
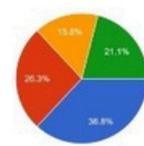
学びを調整する力

算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずに色々な方法を考える。



よりよいものを創り上げる力

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。



- 4. 当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまらない
- 1. 当てはまらない

青や赤の部分が、どの学年でも多いね！

全体的に見て、
学びに向かう意識は
高まってきているね！

公開授業

1年生（たしざんとひきざん）・6年生（並べ方と組み合わせ方）を公開。

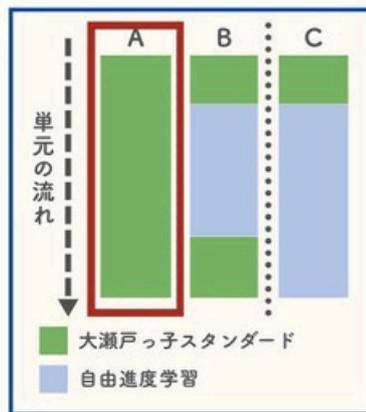
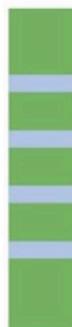
1年生 「たしざんとひきざん」

大瀬戸スタイルAの派生



授業の概要

発達段階や既習の量などを考慮し、「スタンダード」を基盤とした1単位時間内の【自由進度】を第2～5時（全6時間）において展開する方がよいと考えた。



本時では、加法・減法が用いられる場面を理解し、図や式を用いて問題を解決する力を養うことを目標とした。1単位時間中の「大瀬戸っ子スタンダード」と「自由進度学習」を往還させる形を取った。右上の図で行くと、「大瀬戸スタイルAの派生」となるであろう。児童が自分の理解度や好みに合わせて「1アップコース（補充）」や「スターコース（応用）」を選択できる場を設け、自分のペースで学習を進める「自己決定」の場面を保証した。また、友達と教え合う「ヘルプミーエリア」や「対話エリア」を設置することで、「〇番目”を〇人”に置き換える」という見方・考え方を働かせながら、1年生なりに互いの学びを支え合う姿が見られた。

「1年生には難しいのではないか」という懸念を覆し、教材の工夫や場の設定により、児童が45分間高い意欲を持って取り組む姿が見られた。特に、自分で立てた「めあて」に基づき、迷った際にもヒントエリアを自発的に活用して解決しようとする「学びを調整する姿」は、低学年における自由進度学習の可能性を強く示すものであった。

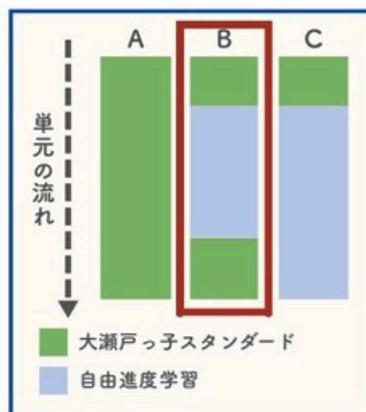
6年生 「並べ方と組み合わせ方」

大瀬戸スタイルBの派生



授業の概要

A・B・Cで各学年実践を積み重ねた結果、本単元では【一斉】と【自由進度】を交互に配置することがよいと考えた。



順列と組合せの違いに着目し、図や表を用いて落ちや重なりのないように調べることを目標とした。本時は「パターンBの派生」として、単元全体を「大瀬戸っ子スタンダード」と「自由進度学習」を往還させる形をとった。「大瀬戸っ子スタンダード」において、単元の学びを支える見方・考え方を捉えさせ個に委ねるという流れ構想した。児童は学習計画表に基づいて自らの現在地を把握し、友達との対話や、ヒントカードの活用を自ら判断して進めた。教師は意図的な班編成を行い、対話を促し個々の躓きを解消する「適宜支援」を重点的に行った。

高学年らしい、核となる見方・考え方（落ちや重なりがないか）を働かせた対話が見られ、自力解決が難しい場面でも友達との交流やヒントの活用を通して「納得」へと至るプロセスが定着していた。特に、単元全体を見通した学習計画表があることで、「めあて」を立て自己決定の下で学びに向かっていた。また、それを支えたのがスプレッドシートを用いた振り返りであり、思考の変容の自覚化や、学び方の価値付けをしてメタ認知を促進させる取組が、主体的な深い学びへとつながった。

研究協議会



本校職員と、市教委指導主事（本校担当）・県教委指導主事（本校OB）が、ファシリテーターや書記に分かれ、全参観者とグループ別に協議。

研究同人

令和6年度

校長	前野 泰介
教頭	石山 裕美
教務主任	江頭 徹
1年担任	一瀬 健士朗
2年担任	中西 将仁
3年担任	柴田 渚
4年担任	朝川 静香
5年担任	破戸 亜希子
6年担任	川村 美穂子
おおぞら1担任	外浦 康代
おおぞら2担任	石原 寿
たんぼぼ担任	小森 友紀
つくし担当	岳本 登美江
	中村 麻希
拠点校指導員	出口 研一
養護教諭	越尾 めぐみ
学校栄養職員	堺 里絵子
A L T	カディ ジャ・ダニエル・クラーク
英語指導員	サールヤー敏枝
図書館司書	梶原 千穂
学習支援員	坂本 菜穂子
	水本 ちなみ
	大久保 美穂
事務主幹	坂口 正彦
学校用務員	山添 由美子
GIGAサポーター	濱田 真綾

令和7年度

校長	前野 泰介
教頭	安田 一義
教務主任	朝川 静香
1年担任	川村 美穂子
2年担任	中西 将仁
3年担任	破戸 亜希子
4年担任	桐 洋子
5年担任	堤 講太
6年担任	柴田 渚
おおぞら1担任	中村 麻希
おおぞら2担任	外浦 康代
たんぼぼ担任	小森 友紀
つくし担当	友永 央
拠点校指導員	出口 研一
養護教諭	越尾 めぐみ
学校栄養職員	安藤 幸音
A L T	カディ ジャ・ダニエル・クラーク マクレー・ウォーカー
英語指導員	サールヤー敏枝
図書館司書	梶原 千穂
学習支援員	坂本 菜穂子
	水本 ちなみ
	永野 美里
事務主幹	坂口 正彦
学校用務員	山添 由美子
GIGAサポーター	濱田 真綾

リンク



本校ホームページに、研究に関する資料を掲載しています。

QRコードを読み込むとアクセスできますので、ぜひご覧ください！



校内研究：研究に関する資料

研究発表会関係のお知らせ

【本校の研究に関する資料①～⑥】

- ①令和4・5年度 研究紀要（西海市教育委員会指定「学力向上」）.pdf
- ②令和6・7年度 研究紀要（長崎県教育委員会指定「学びに向かう力の育成」）.pdf
- ③令和7年度 大瀬戸小「研究概要説明」プレゼン資料.pdf
- ④令和7年度 大瀬戸小「研究概要説明」動画【前半】YouTube配信（約12分）
- ⑤令和7年度 大瀬戸小「研究概要説明」動画【後半】YouTube配信（約8分）
- ⑥令和7年度 大瀬戸小「研究部と語る会」動画 YouTube配信（約10分）

校長室：校長作成の校内研究資料

令和7年度 校内研究（校長資料）

- 仏澤会 教育実践研究論文 本文 大瀬戸小.pdf
- 070528 ⇨先生会授業の授業性 UP.pdf
- 070911 A小学校の研究について UP.pdf
- 070919 大瀬戸小 学力分析（R7 9月） UP.pdf
- 071022 ⇨教員「立休の休休」の授業を振り返って.pdf
- 071028 授業振り返り（継続業の書き方）UP.pdf
- 071203 「令和の生きる力育成プロジェクト」シンポジウム 報告 UP.pdf
- 071209 可能性のある「継続業」の授業 UP.pdf
- 071212 自由進歩学園（大瀬戸）の現在と理想 UP.pdf